

クラウドシフトに潜むネットワークの課題と解決

AI0 vThunder が実現するマルチクラウド環境のセキュリティ強化

1 急速なクラウドシフトの流れ

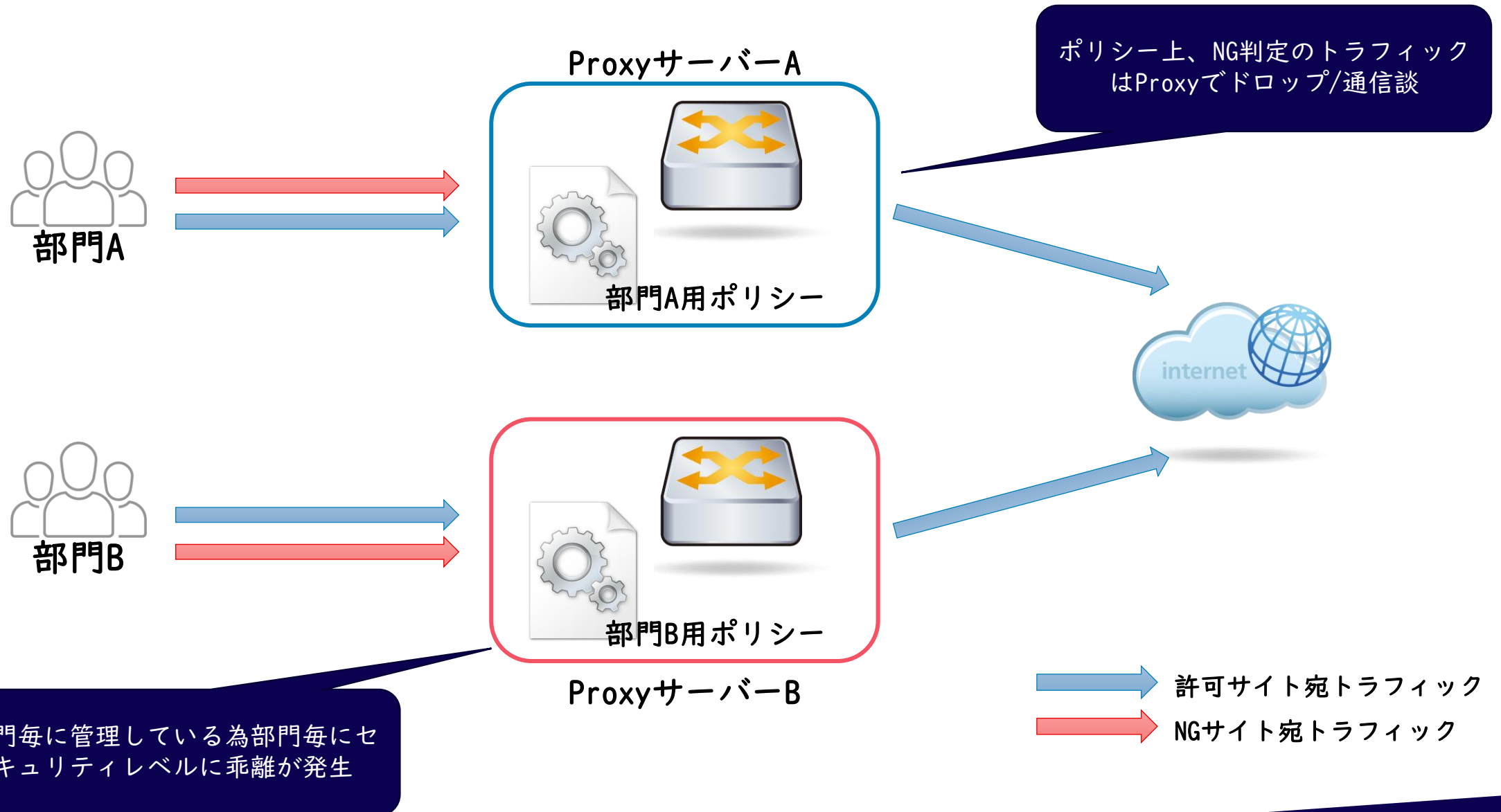
メールやweb会議、クラウドストレージに加え、CRM/SFAや基幹システム等、従来社内に設置されていたインフラがクラウドサービスへシフト

2 通信量の増加

急激なクラウド化に伴い、回線やネットワーク機器の容量不足の発生による通信性能の悪化

3 ポリシー不整合の発生

- 部門毎のシステム乱立と各システムの運用によるコストの増大
- サイロ化したシステム運用によるセキュリティポリシーの一貫性の欠如



ポリシー上、NG判定のトラフィックはProxyでドロップ/通信断

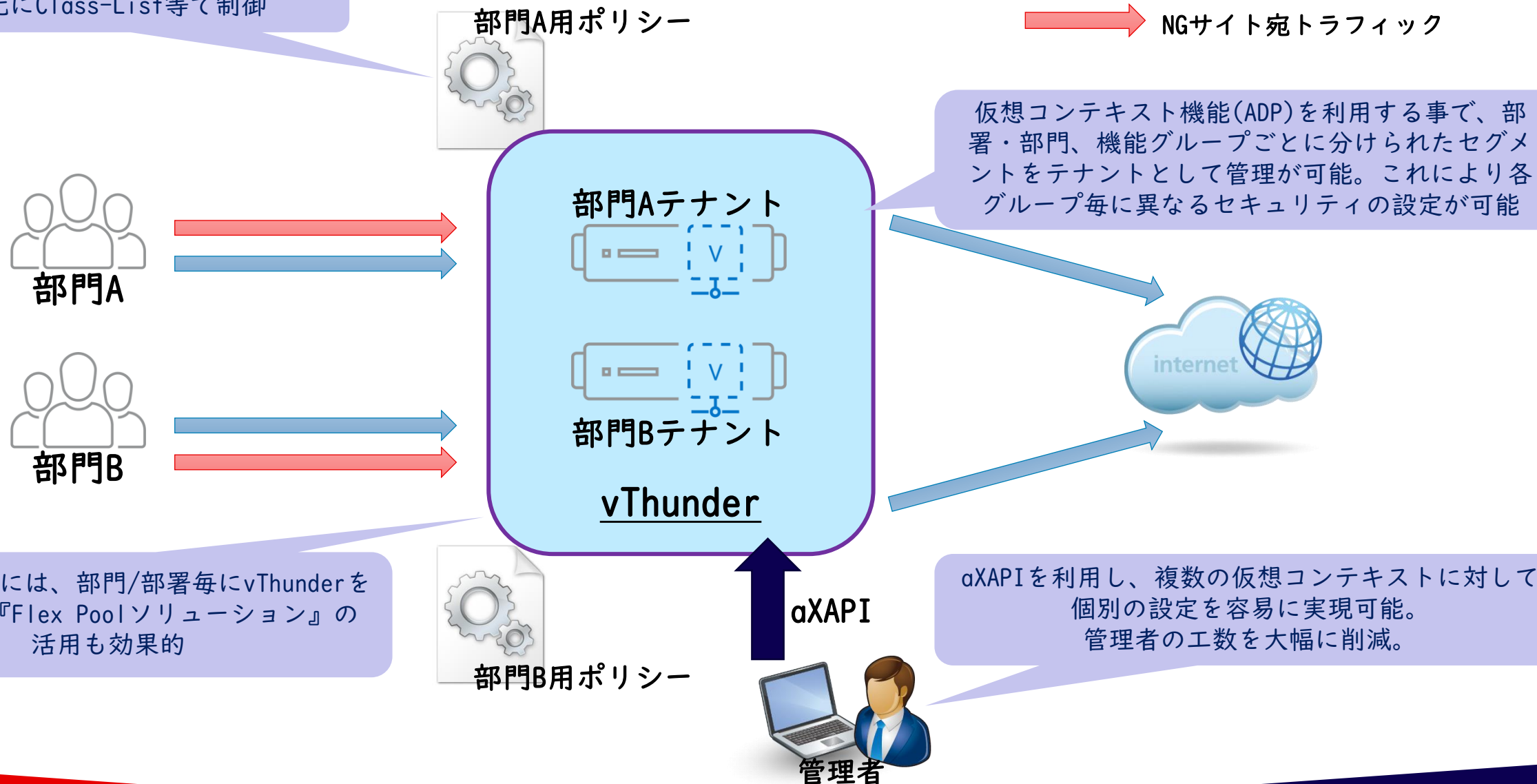
部門毎に管理している為部門毎にセキュリティレベルに乖離が発生

許可サイト宛トラフィック
NGサイト宛トラフィック

vThunder導入による解決策

ユーザートラフィックを送信元アドレスや宛先を元にClass-List等で制御

許可サイト宛トラフィック
NGサイト宛トラフィック



仮想コンテキスト機能(ADP)を利用する事で、部署・部門、機能グループごとに分けられたセグメントをテナントとして管理が可能。これにより各グループ毎に異なるセキュリティの設定が可能

大規模ユーザには、部門/部署毎にvThunderを発行出来る『Flex Poolソリューション』の活用も効果的

aXAPIを利用し、複数の仮想コンテキストに対して個別の設定を容易に実現可能。管理者の工数を大幅に削減。

ナレッジでつなぐ、未来をつくる

Unite Knowledge, Ignite the Future.



mki

三井情報株式会社
MITSUI KNOWLEDGE INDUSTRY